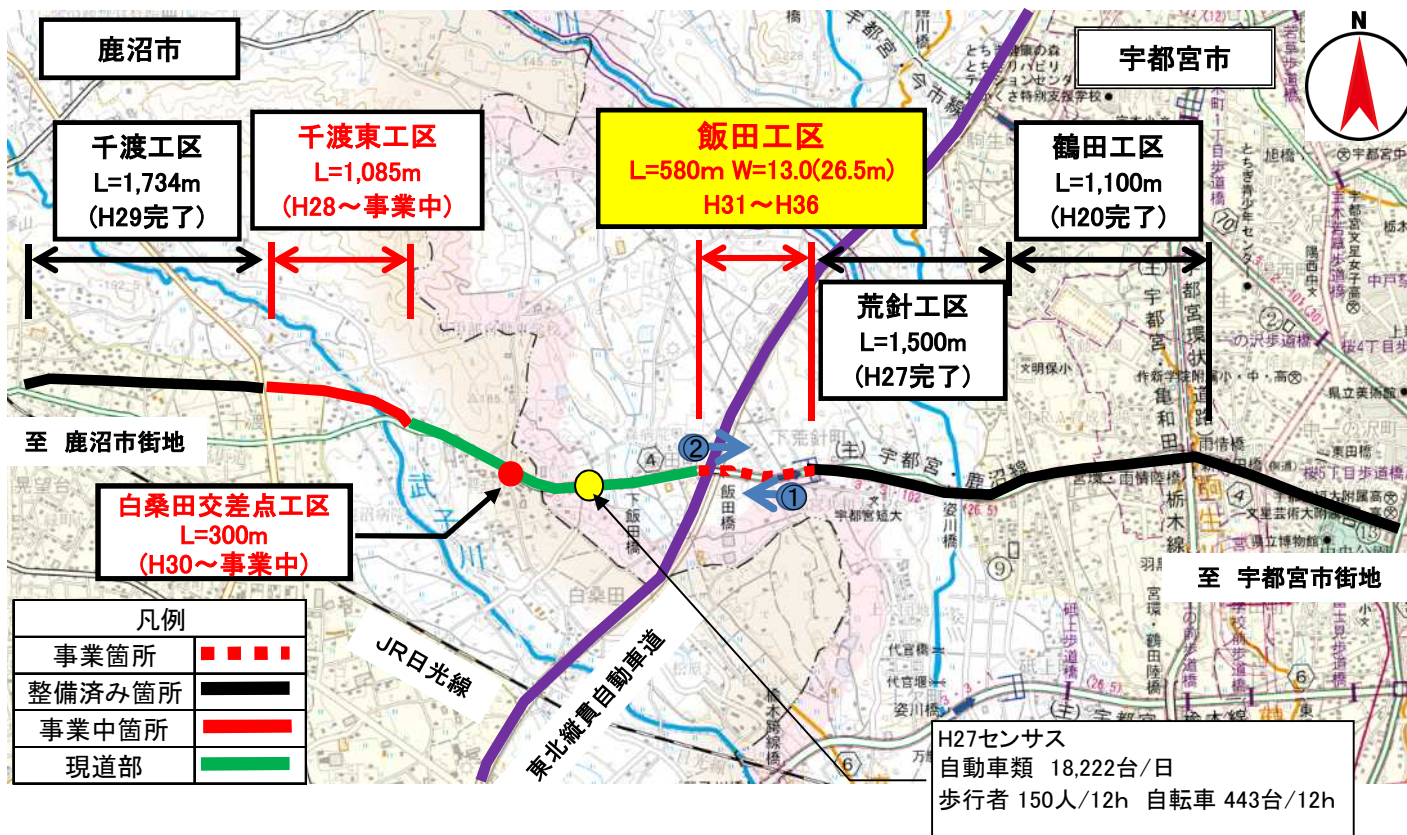


事業の概要				
事業名	主要地方道宇都宮鹿沼線 飯田工区整備事業		事業主体	栃木県
事業箇所	飯田工区 宇都宮市飯田町			
事業の目的、事業発案の経緯・背景				
<p>主要地方道宇都宮鹿沼線は、宇都宮市の都市の骨格を形成する放射状道路の一つであるとともに、宇都宮市と県西部との連携を支える重要な幹線道路でもあることから、自動車類の交通量は約1万8,000台/日を超え、歩行者自転車交通量は約600人・台/12hである。</p> <p>しかし、宇都宮市飯田町地内の現道においては、車線数が2車線のため朝夕を中心に交通渋滞が発生しており、明保小学校の通学路であるが歩道が一部未整備で自転車通行空間も確保されていないことから歩行者自転車の安全確保も必要となっている。</p> <p>このことから県では、宇都宮市街地側から4車線化と、歩道および自転車通行空間の整備を進めており、本工区を整備することで安全で円滑な交通を確保するとともに、宇都宮市と県西部との都市間のいっそうの連携強化を図るものである。</p> <p>また、県議会県土整備委員会においても、地元宇都宮市より早急な整備が要望されている。</p>				
事業内容				
【計画の基本スタンス】				
<ul style="list-style-type: none"> 交通渋滞の解消と歩行者自転車の安全性向上のため、約580m区間について現道を拡幅する。 平成25年3月に都市計画決定された都市計画道路3・3・102宇都宮水戸線と合致するよう、ルート、車線数および幅員について計画した。 				
<ul style="list-style-type: none"> 総延長：約580m 標準幅員：26.5m（車道13.0m、中央帯3.5m、歩道3.5m×2、路肩1.5m×2）（3種2級） 車線数：4車線 計画交通量：20,800台/日（平成42年） 				
事業予定期間	平成31年度～平成36年度	事業見込額及び内訳	総事業費	約10億円
	用地調査：平成31年度～		事業費内訳	測量設計費：約1億円 用地補償費：約6億円 工事費：約3億円
	用地取得：平成31年度～平成34年度		財源内訳	国費：50% 県費：50%
	工事実施：平成33年度～平成36年度			
事業概要図				
別紙記載				
県計画への位置付け				
<p>本路線は、「県土づくりプラン2016」において、重点施策である「拠点間の連携・交流を支える幹線道路網の強化」に位置付けられている。</p> <p>また、「とちぎみちづくり構想」において、広域幹線道路網である「栃木県央横断幹線」に位置付けられている。</p>				
他計画・他事業との関連				
宇都宮市都市計画マスタープラン(平成22年4月)において、周辺都市との連携を図るための広域幹線道路として位置付けられている。				

事業の評価		
評 価 の 視 点	1. 事業の必要性	<ul style="list-style-type: none"> 朝夕を中心に交通渋滞が発生していることから、4車線化により交通の円滑化を図る。 歩道および自転車通行空間を整備することで、歩行者自転車の安全を確保する。 宇都宮市と県西部との拠点間の連携・交流を強化することで、産業・経済への支援強化を図る。 本路線は、第三次緊急輸送道路であることから、震災時の応急対策人員や円滑な物資の輸送が確保されるよう、幅員の確保等の道路機能の強化を図る。
	2. 事業の適時性 (今事業に着手する理由等)	<ul style="list-style-type: none"> 本路線は、朝夕を中心に交通渋滞が発生しているほか、歩道が一部未整備で自転車通行空間も確保されていないことから、現道の拡幅整備が急務となっている。県では、これまでに宇都宮市街地側から4車線化の整備を行ってきており、平成27年6月には隣接する荒針工区が完了した。今後も引き続き、本路線の整備を行う必要があるため、飯田工区の来年度の事業化を図る。
	3. 事業の適地性	<ul style="list-style-type: none"> ルート、車線数および幅員の設定に当たっては、平成25年3月に都市計画決定された都市計画道路3・3・102宇都宮水戸線と合致する計画とした。
	4. 事業手法の適切性 (県が事業主体となる理由等)	<ul style="list-style-type: none"> 主要地方道宇都宮鹿沼線の現道を拡幅するものであり、道路管理者として、県が事業を実施する。
	5. 事業により予想される効果及び影響	<p>○経済効果</p> <ul style="list-style-type: none"> 費用便益比(B/C) 2.4 総便益(B) 21.9億円 ※供用後50年間の効果を金銭に換算したもので、走行時間短縮(18.9)、走行経費減少(1.7)、交通事故減少(0.6)、温室効果ガス等削減(0.7)の合計である。 総費用(C) 9.3億円 ※建設費と供用後50年間の維持管理費をそれぞれ現在価値化して加算したもの。『事業の概要』の「事業見込額及び内訳」とは異なる。 <p>○交通の円滑化</p> <p>○歩行者自転車の安全の確保</p> <p>○宇都宮市と県西部との拠点間の連携・交流の活性化と産業・経済への支援強化</p> <p>○災害時の救援活動や物資輸送に資する緊急輸送道路の強化</p>
	6. 事業コスト縮減等の可能性	<ul style="list-style-type: none"> 再生材の利用や、建設発生土の公共工事間流用に努め、コスト縮減を図る。
事業の対応方針(案)		本事業については、平成31年度より着手する。

事業概要図



【現道の状況】



【標準横断図】

